慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	開発途上国市場進出における意思決定を促進する要因
Sub Title	
Author	藤村, 智之(Fujimura, Tomoyuki) 岡田, 正大(Okada, Masahiro)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2013
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2013年度経営学 第2878号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002013-2878

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程

学位論文（　2013　年度）

論文題名

開発途上国市場進出における意思決定を促進する要因

主　査	岡田 正大 教授
副　査	高木 晴夫 教授
副　査	中村 洋 教授
副　査	

2014 年　2 月　28 日　提出

学籍番号	81230842	氏　名	藤 村 智 之

論 文 要 旨

所属ゼミ	岡田 正大 研究会	学籍番号	81230842	氏名	藤村 智之

（論文題名）

開発途上国市場進出における意思決定を促進する要因

（内容の要旨）

現在、開発途上国において、国の成長に伴い所得が向上し新たな中間層が誕生している。今後は市場が急速に広がると考えられており、この傾向は長期にわたり続くと言われている。この市場はビジネスにおいて地球上に残された最後の潜在市場であり大きな可能性が残されている。一方、未だ開発途上国は、貧困、インフラストラクチャー、環境、女性地位、衛生 など、様々な社会的課題が存在し、多くの人々が日々の生活に問題を抱える中で生活している。このような環境下にある開発途上国市場でのビジネスは、市場規模の大きさによる経済的成果の可能性のみならず、社会課題の解決に対して大きな可能性を持つ。企業がビジネスとして経済性の追求と社会課題の解決に持続的に取り組むことで、そのビジネスに関連するすべてのステークホルダーに対して価値を共有することが可能となる。

日本には技術に優位を持つ企業は多く、日本企業はこの市場において競争優位を獲得するために十分な経営資源や強みをもっていると言われている。これらの経営資源や強みを活かし低所得者層市場にて経済活動を行うことにより、その資源の配分を通じて低所得者層が抱えるあらゆる社会的課題を解決し生活の選択肢を増加させることが可能であると同時に、企業にとっても企業価値を高める大きな機会となる。しかし、日本企業は開発途上国市場において、欧米、韓国、中国企業に比べて存在感が薄く、この市場を重要視する日本企業もまだ数少ない。この状況は魅力のある市場を無視することによる大きな機会コストを生じさせていると考えられ、結果として一企業の競争優位の喪失だけでなく、日本全体のグローバル市場におけるプレゼンスを弱めることになると危惧している。

本論文において、研究対象とする企業が開発途上国市場進出の意思決定を促進する要因について、その組織の持つ志向を基に、経営資源やケイパビリティの観点から議論する。また近い将来、不確実性が大きくなるビジネス環境の中で、企業が持続的に競争優位を獲得し成長するために必要となる要素を提示する。